

インターフェイスの街角 (80) – 本棚コミュニケーション
増井俊之

他人の本棚

他人の本棚を覗くのは、なんとなく楽しいものです。仲のよい友人の本棚には、自分の趣味に近い本があったかと思うと、逆に意外な一面を覗かせる本が置かれていたりします。よく知らない人の場合でも、本棚を見れば共通の話題が見つかることもあるでしょう。なかには、他人に見られても困らないように、恰好のいい本を選んで並べている人もいるかもしれません。

ときどき、書店のフェアなどで有名人の本棚を展示しているのをみかけます。池袋のジューク堂書店では、椎名誠の選んだ本を並べた“シーナ書店”というコーナーを設けています(予定では11月までだそうです)。東京駅近くの八重洲ブックセンターでは1カ月ほど前に、松岡正剛の“千夜千冊”にちなんだブックフェアがおこなわれていました。これらのフェアでは、有名人の選んだ本がとくに解説もなく並べられていただけでしたが、彼らの趣味が色濃く反映された本棚を見るだけでも興味深いものです。このように、他人の本棚を眺めるのはなかなかおもしろい体験です。

とはいっても、他人の家にある本棚を見る機会はそれほどありません。しかし、蔵書リストがWebで公開されていれば気軽に見られるのではないのでしょうか。また、オンライン書店などのWebページで公開されている表紙の写真も併用すれば、蔵書リストを本棚のように表示することもできます。それぞれの蔵書リストを本棚のようなかたちで公開し、互いに参照しあいながら情報を読んだり書いたりできるようにすれば、本棚を媒介としたコミュニケーションが成り立つかもしれません。

図1 本棚.org トップページ



このアイデアをもとに、ユーザーが粗なコミュニケーションをおこなうサイト“本棚.org”¹を作ってみました。

本棚.org

本棚.orgのトップページは図1のようになっています。一番上に表示されているのは最近コメントが更新された書籍で、下のほうには“本棚”のリストが表示されています。本棚に内容が追加されると、その本棚がリストの一番上に移動します。本棚リストでは、本棚の名前のほかに、その本棚に登録されている書籍の点数と簡単な説明が記されています。

それぞれの本棚は、図2~3のような形式で表示されます。tDiary²のテーマが使えるので、このように見映えの

1 現在の URL は <http://pitecan.com/Bookshelf/> ですが、時期をみて <http://hondana.org/> に移動する予定です。
2 <http://www.tdiary.org/>

図 2 本棚 (1)



図 3 本棚 (2)



図 4 本棚の詳細表示



異なる棚を作ることができます。

デフォルトでは、本棚には書影だけが表示されるようになっていますが、図 4 のように詳細情報を同時に表示させることもできます。

メニューで「新規追加」を選択すると、新しい本を追加するページに移動します(図 5)。テキストボックスに ISBN 番号を入力して「書籍追加」ボタンを押すと、Amazon API を用いて Amazon.com から取得した書籍情報がデータベ

図 5 新しい本の追加



図 6 書籍情報編集ページ



ースに追加されます。

新しい本を追加したり、リスト表示で書籍をクリックしたりすると、図 6 の書籍情報編集ページに移動します。著者名や出版社名は Amazon.com のデータベースを参照して自動的に生成されますが、コメントや評価、カテゴリーをユーザーが入力することもできます。コメントの部分では、Wiki (Wiki Wiki Web) での書込みと同じように、ほかの本棚や Web ページへのリンクを張ることも可能です。

カテゴリーが登録されていれば、カテゴリー別の表示もできます(図 7)。1 冊の本を複数のカテゴリーに登録してもかまいません。「隠す」または「非表示」という名前のカテゴリーにしておくと、カテゴリー別のページには表示されますが、リスト画面では見えなくなります。たとえば、買おうと思っている本を追加する場合、その本を「隠す」「購入予定」というカテゴリーに登録しておけば、デフォルトのリスト画面には表示されませんが、購入予定の本だけを選び出せるようになります。

著者名をクリックすると検索スクリプトが動作し、その

図 7 カテゴリー別表示



図 8 `ruby` をキーワードに検索



著者をキーワードとした検索が実行されます。また、トップページからキーワードによるデータベースの検索も可能です。図 8 は、`ruby` をキーワードとして検索した例です。ご覧のように、コメント欄に `ruby` という文字列が含まれている書籍もすべてリストアップされています。

自分と同じような趣味をもつ人の本棚をみつけられるように、各本棚の類似度を計算し、その度合いが高い本棚をリストアップする機能も用意されています。`類似度` というのは、本棚 A と本棚 B に共通に含まれている本の冊数を、A と B に登録されている本の数の平均で割った値です。たとえば、本棚 A に 10 冊、本棚 B に 4 冊の本が登録されており、このうちの 2 冊が同じものだった場合の類似度は $2 \div ((10 + 4) \div 2) = 0.2857\dots$ となります。本棚 A と本棚 B の内容がまったく同じ場合には、類似度が 1 になります。

この類似度計算を使うと、2 つの本棚の傾向がどのくらい近いかを知ることができます。また、特定のジャンルの本を集めた `標準本棚` を作り、それとの類似度を計算すれば、本棚の `××度` が分かります。たとえば、ハッカー

図 9 類似本棚の検索



図 10 正統派ハッカーの本棚



図 11 正統派ハッカーの必読書を検索



の必読書と思われる本を取り揃えた `正統派ハッカーの本棚` を作って自分の本棚との類似度を計算すれば、自分の `ハッカー度` を求めることができます。

他人の本棚を眺めているとき、自分が持っている本と同じものがあるのに気づくことがあります。あるいは、おもしろそうな本を見つけ、自分の本棚にも入れておきたくなることもあるでしょう。このような場合、他人の本棚にある本を自分の本棚に簡単にコピーできれば便利です。

いまのところ、本棚.org ではこのような機能は用意して

図 12 bookmarklet

```
javascript:var%20src=document.body.innerHTML;var%20loc=src.indexOf('ISBN:');var%20isbn=src.substring(loc+5,loc+15);void(window.open('http://pitecan.com/Bookshelf/Alice/write.cgi?isbn='+isbn))
```

bookmarklet
について簡単に説明し
ていただけませんか

いませんが、bookmarklet を利用すれば、1 つの操作で書籍情報を簡単にコピーすることができます。たとえば、図 6 の編集ページで図 12 のような bookmarklet を利用すれば、“Alice の本棚”に同じ本の情報を追加することができます。

実装

本棚.org では、個人ごとに本棚を作り、そこに本を登録していくのが基本です。ただし、個々人のアカウントを用意しているわけではなく、Wiki のように誰もがどこにでも書き込めるようにしてあります。ログイン機能などを作るのが面倒だったのでこういう実装にしたのですが、さきほど触れた標準本棚のような機能を実現するには、かえってこのほうが都合がよいことが分かりました。いまのところ、どうしてもユーザーの情報が必要という事態は起きていないので、当面は個人認証などを導入する予定はありません。

リスト表示や編集などの機能は、すべて Ruby で記述した CGI を使って実装しています。また、各本棚はディレクトリになっており、書籍のデータベースは普通のテキストファイルとして簡便に作ってあります（このような単純な実装だと、ユーザーが爆発的に増えたときには困りそうですが……）

検索には agrep コマンドを使っているので、曖昧検索も可能です。

さきほども書いたように、各本棚では tDiary のテーマが使えるため、図 2~3 のようにいろいろな雰囲気の本棚が作れます。

運用実績

2004 年 7 月末にサービスを始めた本棚.org では、約 1 カ月で 700 の本棚に約 5 万冊の本が並ぶ規模になりました。街の小さな書店の在庫は 5,000 冊程度だそうですから、5 万冊というのはかなりの分量です。SNS (Social

Networking System) の 1 つである Mixi³ で宣伝はただけですが、あちこちの Blog などで紹介してもらったせいか、ユーザーも順調に増えつつあります。

あるシステムが流行するには、おもしろくて、便利で、簡単に使えるという条件が揃っていることが重要です。本棚.org は、ものすごく便利だとか最高におもしろいといった性質のものではありませんが、これらすべての点でそこそのレベルにはなっているような気がします。

おもしろさ

はじめにも書いたように、他人の本棚を見るのはなかなか魅力的な行為です。おもしろい本をみつけたいとか、趣味の近い人を捜したいという明確な意図がなくても、他人の本棚というものはなんとなく眺めてみたくなるから不思議です（覗き見趣味がもしもありませんが）

逆に、自分の本を並べて人に見せたいと思う人も多らしく、短期間に私の予測を上回る勢いでたくさん本が登録されました。蔵書の冊数や質を自慢するため、あるいは、“便利そうだから”といった理由で利用している人もいるでしょうが、本を並べるのがなんとなくおもしろそうだと感じて使っている人もかなりいるようです。

本棚を見ると、その人の趣味や実力が窺えるような気がします。たとえば、難しそうな本が並んだ本棚の持ち主は賢くみえたりするので、そういう人の読んでいる本なら買って間違いないだろう、……という判断の仕方もあるでしょう。

本棚を一般に公開するのは、ある意味で自分の趣味や考え方を他人にさらけ出すようなものですから、けっこう怖い行為だと思います。それにもかかわらず、本棚を積極的に公開する人が多いのは興味深い現象です。もしかすると、自己顕示欲の強い人が意外に多いのかもしれませんが（マニア受けしそうな、または“オレ様はこんな本まで読んでいるんだぜ”的な本を優先して登録している人がかなりいるように思います。この種のシステムでは、自己満足も大切な要素といえそうです）

3 <http://mixi.jp/>

便利さ

以前、私は蔵書を整理するために“買った本”や“買いたい本”という Wiki ページを作って利用していましたが、本棚.org を使い始めてから、こういった作業がかなり楽になりました。おもしろそうな本があったら、すぐに自分の本棚に登録できるので、“買いたい本”がどんどん増えて困っているほどです。買いたい本は“購入検討”というカテゴリーを設定し、このカテゴリーに登録した本のリストを印刷して持ち歩いています。大きな書店などに寄ったとき、このようなリストがあると重宝します。

自分の部屋の本棚の整理にも活用しています。捨てるのは忍びないけれども部屋の本棚に並べておくと邪魔になるような本は、まとめて本棚.org に登録してから箱に詰めて押入れにしまえば、検索も簡単ですし、(実世界の)書棚も有効に使えます。

もちろん、こういった個人的な使い方も便利ですが、特定のジャンルの本を集めた本棚やグループで共有する本棚も役に立ちます。執筆時点では、ジャズマニアの本棚、山形浩生ファンの本棚、ピュリッツァー賞受賞作の本棚など、テーマを絞った本棚がいくつか作られ、情報共有に利用されています。

私自身も、ために“萌え専科の本棚”というものを作ってみました。まず、書名が“萌”にマッチする本棚を作り、その本棚から類似本棚検索を実行して関連書籍をたくさん集めることができました。私は、この方面には詳しくないのですが、本棚.orgのおかげでかなり効率的に関連書籍を集めることができました。

簡単さ

どんなシステムでも、手軽に使えるという点はたいへん重要です。書評サイトや商品紹介サイトはたくさんありますが、書評や商品紹介を書くにはかなりの手間がかかりますし、それに見合った成果が得られるとはかぎりません。事実、情報を読む人に比べて書く人の数は圧倒的に少ないようです。本棚.org の場合、情報を登録する手間はかかりますが、頭を使う必要はないので、情報発信の敷居はかなり低くなっていると思います。

本棚.org で新しい本を登録するときは、ISBN を入力する必要があります。これはたしかに面倒ですが、Web で書名や著者名などをキーに検索すれば簡単に分かりますし、

バーコード・リーダーを使えば一瞬で登録できます⁴。

kakaku.com のような商品紹介サイトでも、商品の特徴などを言葉で説明する代わりに買った事実だけを投稿できるようにすれば、もっとおもしろい使い方が増えるのではないのでしょうか。

気づいたこと

本棚.org を運用していく過程で気づいたことをいくつか挙げておきましょう。

- 現在は、Wiki のように誰もがどこにでも書き込めるようにしていますが、SNS 的な要素をもたせるにはユーザー登録や認証が必要になりそうです。私自身はあまり導入したくないのですが、やはり個人的なやりとりをしたいということになれば、そのような機能が必要になるかもしれません。現在は、コメント欄を掲示板代わりに使ったりしている人もいます。
- 日本の書籍の総売上高は、年間で 1 兆円程度です(雑誌は除く)、つまり、漫画や絵本などをすべて合計しても、単純計算で 1 人あたり年間 8,000 円前後しか本を買っていないことになります。一方、本棚.org では 700 人のユーザーが約 5 万冊の本を登録しており、1 人平均で約 70 冊も登録していることになります。上記の統計から考えると、このようにたくさん本を買う人は少数派ですから、本棚.com を積極的に活用しようという人はそれほど多くはないでしょう。ただ、本があまり好きでない人はそもそも利用しないと思われるので、“荒らし”の危険性は少ないと思われます。
- 予想どおり、登録された本の数に比べて書評やコメントはほんのわずかしが登録されていません。どうやら、頑張って真面目に書評を記す人と、たんに本を登録するだけの人に二分されているようです。もしかすると、すでに自分の Web ページや Blog で感想を書いている人が多いからかもしれません。
- 現時点では、コンピュータに詳しい人のあいだでしか宣伝されていないため、人気書籍のランキングを調べると、

原文は 5,000 億円
書籍は約 1 兆円、
雑誌は約 1 兆 3 千億円です

⁴ バーコード・リーダーは計算機の周辺機器としてポピュラーなものではありませんが、安いものなら 1 万円以下で入手できます。さらに、2003 年 4 月号で紹介した“バーコード Wiki”などでも使えるので、導入を検討してもよいでしょう。

やはりソフトウェア系が多くなっています(登録数ももっとも多いのは、『プログラミング言語 C』(共立出版)と『プログラミング作法』(アスキー)でした)。コンピュータを専門としない人にも、もっと使っていただきたいものです。

- Wiki サイトでは、記述に誤りがあった場合、黙って修正したり情報を追加してくれる親切な人がいますが、本棚.org の場合もそういう現象があるようです。さきほど触れた“萌え専科の本棚”を作ったあと、しばらく放置していたところ、誰かが書籍をどんどん追加してくれたようで、私の知らないあいだに異様なほど充実した本棚ができあがっていました。

なんらかのトピックに対応する本棚を作っておけば、親切な人がその本棚にふさわしい本を揃えてくれるのはありがたいことです。“海外留学を希望する学生のための本棚”とか“大学受験術の本棚”などを作っておくと、有用な情報が集まるかもしれません。

類似システム/アイデア

多くの有名人が、自分の Web サイトで書棚の内容を紹介したり書評を公開したりしています。そのうちのごく一部を紹介しておきましょう。

- 立花隆の本の世界
<http://www.ttbooks.com/>
- 松岡正剛の千夜千冊
<http://www.isis.ne.jp/mnn/senya/senya.html>
- 野口悠紀雄の本棚
<http://www.noguchi.co.jp/NL/index.php3>
- 森山和道ブックレビュー
<http://moriyamabook.seesaa.net/>

搜してみると、他人の本棚を覗く楽しさについて述べている人がかなりいますし、そのようなシステムを試作した人もいます。

たとえば、慶應義塾大学の和田裕介氏は、RFID タグを付けた本を書棚に並べることで情報を共有する「ボクダナ」⁵というシステムを考案して試作しています。また、新井俊一氏は写真に撮った自分の書棚を出会い系サイトで利用す

⁵ <http://web.sfc.keio.ac.jp/~yusukebe/sotsusei/bokudana/>

るアイデアを Blog で紹介しています⁶。

よく似たアイデアを思いつく人が多いということは、本棚.org のようなシステムが求められている証拠なのかもしれません。

おわりに

本棚.org のシステムを思いついたのは、自分の蔵書を整理するために使っていた Wiki ページの書影リストを知人に見せたら意外と評判がよかったことがきっかけでした。といっても、最初は蔵書の整理や古書の売買、同じ趣味をもつ人の発見などに使えるかもしれないという程度の考えでした。おもしろそうな本を発見したり、SNS に応用できそうだとも思っていたのですが、実際にサイトを公開して運用していくうちに、もっと根源的なおもしろさを感じるようになりました。

今後、CD や DVD など登録できるようにしたり、あるいは携帯電話から扱えるようにするつもりです。携帯電話が使えるようになれば、外出先で買うべき本を搜したり、購入直後に登録したり、電車のなかでコメントを書いたりといったように応用範囲がいろいろとひろがりそうです。

(ますい・としゆき 産業技術総合研究所)

⁶ <http://www.moodindigo.org/blog/archives/000230.html>